

# 汎用的教育コンテンツ利用実績紹介フォーム

## 1.利用情報

教育機関名	新潟経営大学
学部・学科名	経営情報学部 経営情報学科
コース名・講座名等	情報化リーダーII
対象学年・受講者数	3 年次 4 名 (講座等の履修登録者数を記載してください)
講座実施期間	2014年 10月 ~ 2015年1月
利用コンテンツ名 (該当□をプルダウンで■にしてください)	<input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト型システム開発チーム演習教育コンテンツ
	<input checked="" type="checkbox"/> パーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> ソフトウェア開発技法実践的演習教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 情報セキュリティ実践的教育コンテンツ
	<input type="checkbox"/> 「要求工学を活用した問題発見と情報システムによる解決」実践的教育コンテンツ
コンテンツの利用形態 (該当□をプルダウンで■にし、必要事項をご記入ください)	<b>1.利用したコンテンツ</b>
	<input type="checkbox"/> ①シラバス <input checked="" type="checkbox"/> ⑥テスト問題と解答例
	<input checked="" type="checkbox"/> ②講義スライド <input checked="" type="checkbox"/> ⑦ティーチングガイド
	<input checked="" type="checkbox"/> ③講義ノート <input type="checkbox"/> ⑧受講レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> ④演習課題 <input type="checkbox"/> ⑨ソースコード
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤各種設計書
	<b>2.コンテンツの利用方法について</b>
	<input checked="" type="checkbox"/> 1.教育コンテンツ全てをそのまま利用
	<input checked="" type="checkbox"/> 2.教育コンテンツの一部をそのまま利用
	(利用範囲) _____
	_____
	<input type="checkbox"/> 3.教育コンテンツを改変して利用
	(改変範囲) _____
_____	

講座の全体構成(シラバス) ※単元ごとの学習項目、講義形態、コンテンツ利用の有無を記す			
	単元と時間配分(1コマ= 90 分で実施)	プルダウンで該当項目を選択してください	
	*短期集中講座の場合は、日単位で結構です	講義形態 (座学、個人演習、チーム演習)	単元ごとのコンテンツ利用の有無
1	ロジカルシンキングの基本となる思考	座学	有
2	Whyツリーの概要と活用方法	チーム演習	有
3	パーソナルスキル(コミュニケーション)、システム開発、プロジェクト型開発	座学	有
4	要求分析(1)	座学	有
5	要求分析(2)	チーム演習	有
6	要件定義1	チーム演習	有
7	要件定義2(1)	チーム演習	有
8	要件定義2(2)	チーム演習	有
9	ソフトウェア方式設計(1)	チーム演習	有
10	ソフトウェア方式設計(2)	チーム演習	有
11	ソフトウェア方式設計(3)	チーム演習	有
12	ソフトウェア方式設計(4)	チーム演習	有
13	ソフトウェア方式設計(5)	チーム演習	有
14	就職支援システム(1)	チーム演習	無
15	就職支援システム(2)	チーム演習	無
特記事項			

コンテンツ利用の狙い・目的	社会人経験のない学生達にシステム開発がなんたるかを理解させることは非常に難しい。そこで、学生がイメージできるテーマに基づいてシステム開発の一連の流れを体感させる教材がほしかった。本教材はその狙いに合致していたため、採用させていただいた。
講座の位置づけ 学生の履修前提条件	システム開発がなんたるかを体験してもらい、卒業制作を円滑に遂行するための基礎的素養の涵養が目的である。
授業の進め方	最初の2コマはロジカルシンキング教材を用いてディスカッションのトレーニングを行うと同時に、メンバー同士のアイスブレイクの効果を狙った。その後、本教材を用いて座学→チーム演習のサイクルで授業を進めた。最後の2コマは学生自身の生活における課題を解決するためのシステムを、実践的課題として設計を行った。

## 2. 講座実施後の情報

受講者の感想 (本講座で得られたもの)	授業アンケートでは、「総合的に良い」という評価を全員からいただいた。しかし、自由記述欄における記述はなかったため、感想は不明である。
教員の評価	上記、講座の全体構想において、ソフトウェア方式設計に5コマも割いている。この理由は、学生達の進捗の速度によるものである。これは大学によって学生達の消化率は異なり、本学においては、結果として5コマ必要だった。それでも本学の学生なりによくやったと評価している。
今後の展望 (継続に向けた課題)	本学の学生に本教材を投入した場合、どの程度消化するのかはほぼ掴めた。本講座の目的として、「学生たち独自のシステムを設計する」ことがあげられ、それを遂行するために本教材は適しており、継続して使用していきたい。